

編集後記

RSウイルス感染症, ノロウイルスによる胃腸炎, 次いでインフルエンザの流行と, 多忙な小児の診療が続いていることと思います. 一方, 小児科医にとって冬の季語のようなロタウイルス下痢症は, ロタワクチンを受けている乳児の多い地域ではすっかりその影を潜めています. Hib, 肺炎球菌による細菌性髄膜炎を代表とする侵襲性感染症, 水痘などもワクチンの導入後明らかに激減し, 小児の急性感染症の疫学はダイナミックに変化をしています.

予後不良の代表疾患であった先天性心疾患も, 心臓手術が可能となり, 新生児～小児期の手術成績も次第に向上し, 「成人先天性疾患」という語も生まれてきました. その数は現在わが国では40万人以上とされています. それ自体は大変良いことですが, それに伴って生じてきた医学上の問題点, 成長し大人となった彼らに対する社会としての受け入れなど, 新たな課題も浮き彫りにされてきています. そこで本誌では「成人先天性心疾患と小児科医」とのテーマで特集を組み, 成人になる先天性心疾患患児の動向, 管理体制と小児期の役割, 再手術の適応と成績, 肺高血圧・チアノーゼのある場合の管理と予後, 心臓外の臓器に生ずる問題, 妊娠・出産, 精神的・心理的問題のケアなどについて, それぞれの分野の専

門の先生方に, 現状と課題についてまとめていただきました. 小児科から成人科への移行と協力, 内科・循環器科などの単独科だけではなく横断的総合的な取り組みの必要性が, それぞれで述べられていますが, 患児(者)により良い予後とQOLとなるよう, 病気のスタートを診る小児科からさらに進めていく必要性が感じられます. 本号では, さらに小児がん経験者の晩期合併症, 発達障害診断をめぐる問題など, 長い目で見た小児(というより「人」)の疾患にかかわる総説, 診療などが掲載されています. 小児のピロリ菌の除菌, 児童虐待を疑ったときの画像検査, 子どもの靴, インフルエンザをきっかけに診断に至ったMLDなど, 日常の診療に有用な論文の寄稿も頂きました. 目で見える小児科では新生児全結腸型Hirschsprung病について, 分かりやすい画像とともに掲載されています.

米国では大統領が変わり, 社会が大きくうねり始めていますが, 医療・小児の健康に関する問題に関しては, エビデンスを重視した科学的な判断をますます重視し, 社会はそれに寛容であるべきである, と考えるこの頃です.

(岡部 信彦)

編集: 伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄 (ABC順)

小児科

第58巻第2号 2月号
2017年2月1日発行(毎月1回1日発行)
定価(本体2,600円+税)
年間購読料金
定価(本体41,000円+税)
〔年間13冊(増刊号, 増大号を含む)の誌代〕
〔年間予約購読者に限り送料無料〕
※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社
発行者 福村直樹
〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14
Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕
Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕
FAX 03(3813)0288
<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>
振替口座 00130-1-191269
印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005
広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に記載する著作物の複製権・翻訳権・上映権・譲渡権・公衆送信権(送信可能化権を含む)は金原出版株式会社が保有します.

・**JCOPY** <(社)出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています. 複写される場合は, そのつど事前に, (社)出版者著作権管理機構(電話 03-3513-6969, FAX 03-3513-6979, e-mail:info@jcopy.or.jp)の許諾を得てください.